声優・アナウンス科

授業科目名	時間数	学習形態
オーディショントレーニング	120h	演習・科目試験

授業のテーマおよび到達目標
≪到達目標≫
・本校主催の校内オーディションにて自分の目指す芸能事務所、劇団、放送局からの指名を仰げる人材になる。
・卒業後の進路先としての、芸能事務所、劇団、放送局が実施するオーディションに合格する為の技術を身につける。
・配役オーディションに合格する為の技術を身につける。

授業の概要
・本校主催の校内オーディションにて、芸能事務所、劇団、放送局の前で披露できる一芸の内容を個々に考え、技術を磨く。
・校内オーディション後の２次（最終）審査対策。
・所属オーディションに向けてのシミュレーション。
・オーディション対策としての、デモテープ作成。
実務経験のある教員等
　大手劇団　演出部に所属　多くのオーディション対応の経験を持つ。

授業計画　テキストによる授業
・４月～７月
　各種オーディションに対しての知識を身につける。
　デモテープ作成（ボイスサンプル収録）
・９月～翌１月
　本校主催の校内オーディションにおいての具体的アピール内容考案。
　一芸（一人で行なう）、グループ芸（複数名で行なう）のトレーニング。
　模擬オーディションの実施。
　校内オーディションの実施。
　他、所属オーディション対策。
　デモテープ作成（ボイスサンプル収録）
・２月
　本校主催の校内オーディション後の２次（最終）審査対策。
　他、所属オーディション対策

テキスト
・本校オリジナルテキストを使用。（教員にて作成）

参考書・参考資料等

学生に対する評価
学習状況の確認：定期試験（実技）の実施において専門技術の向上を点数化により判定し評価する。
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
　１００点～８０点　優判定　７９点～７０点　良判定　６９点～６０点　可判定　５９点以下　不可
追試験：科目試験において６０点未満の場合は、後日追試験を実施する。

声優・アナウンス科

授業科目名	時間数	学習形態
マイク演技（アニメ）	120h	演習・科目試験

授業のテーマおよび到達目標

≪到達目標≫
・演技をしながら映像に合わせる技術を身につける。
・本校主催の校内オーディションにて自分の目指す芸能事務所、劇団、放送局からの指名を仰げる人材になる。
・卒業後の進路先としての、芸能事務所、劇団、放送局が実施するオーディションに合格する為の技術を身につける。

授業の概要
・本校主催の校内オーディションにて、芸能事務所、劇団、放送局の前で披露できる演技力、技術を磨く。
・所属オーディションに向けてのシミュレーション。
・オーディション対策としての、デモテープ作成。
実務経験のある教員等
長年声優事務所に所属。声優としてナレーション、国内外アニメ、外画など多数出演実績がある。

授業計画　テキストによる授業
・４月～７月
動画を用いて映像にあてる作業をしつつ、演技するノウハウを身につける。
デモテープ作成（ボイスサンプル収録）
・９月～翌１月
本校主催の校内オーディションに向けたアフレコ演技、マイクワークの習得を目指す。
・２月
本校主催の校内オーディション後の２次（最終）審査対策。
他、所属オーディション対策

テキスト
・本校オリジナルテキストを使用。（教員にて作成）

参考書・参考資料等

学生に対する評価
学習状況の確認：定期試験（実技）の実施において専門技術の向上を点数化により判定し評価する。
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
１００点～８０点　優判定　７９点～７０点　良判定　６９点～６０点　可判定　５９点以下　不可
追試験：科目試験において６０点未満の場合は、後日追試験を実施する。

スポーツビジネス科

授業科目名	時間数	学習形態
トレーニング実践論	90ｈ	講義・科目試験（筆記）

授業のテーマおよび到達目標

本講座は、指導に伴う必要なトレーニング理論全般の習得を目標に置く。

≪到達目標≫

講義：

単元項目終了次、もしくは授業展開次に確認試験を実施し、知識習得の対策を講ずる。

授業の概要

トレーニング指導者として、幅広い対象者やその運動目的に対応する指導技術、トレーニング計画立案からその展開まで、各運動特性に合致した理論を理解する。また、測定・評価・運営・情報収集等、指導者としての業務、役割においても理解を深める。

実務経験のある教員等

体育大学出身の教員及び学校と提携しているスポーツジム企業講師

授業計画　テキストによる授業

●トレーニング指導者論

①トレーニング指導者とは　②国内のトレーニング指導者に対するニーズ

③トレーニング指導者の役割と義務　④競技スポーツ分野における状況に応じた活動

⑤トレーニング指導者の資質　⑥トレーニング指導者が身につけるべき資質

⑦トレーニング指導者の行動と倫理

●トレーニング計画の立案

①トレーニングとは　②トレーニングの原理原則

③トレーニング計画の立案　④ピリオダイゼーション

●筋力トレーニングのプログラム作成

①筋力トレーニングの効果　②筋力トレーニングのプログラムの条件設定

●パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成

①パワーの基本概念　②スポーツや日常生活動作におけるパワー　③短時間に大きな力を発揮する能力

④パワーに類似する用語　⑤パワー発揮様式の分類　⑥パワー測定と評価　⑦パワー向上トレーニング戦略

⑧トレーニングプログラム変数　⑨反動動作における生理学的機能　⑩プライオメトリクスの変数

⑪パワー向上トレーニングの長期計画　⑫フィットネス分野へのパワー向上トレーニングの応用

●持久向上トレーニングの理論とプログラム作成

①持久力に関する基礎理論　②有酸素性持久力向上トレーニングに対する基本的な適応

③無酸素性持久力向上トレーニングに対する基本的な適応

④持久力向上トレーニングのプログラム作成の基本

⑤持久力向上トレーニングのプログラム作成の実際

スポーツビジネス科

●スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成

①スピード・アジリティ　②スピードを向上させる要因

③基礎筋力、最大筋力、スピードストレングス（パワー）の向上　④コアの重要性

⑤スピードにおける動作テクニックの獲得　⑥アジリティの強化　⑦リアクションの強化

⑧スピード、アジリティトレーニングのプログラムデザイン　⑨トレーニング変数

●柔軟性向上トレーニング及びウォームアップとクールダウンの理論とプログラム

①柔軟性向上のトレーニング　②ストレッチング　③ウォームアップとクールダウン

●特別な対象者のためのトレーニングとプログラム

①メタボリックシンドロームに対するトレーニングプログラム

②高齢者に対するトレーニングプログラム

③妊婦に対するトレーニングプログラム

④子どもにたいするトレーニングプログラム

●傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム作成

①アスレティックリハビリテーション概論

②アスリハにおける評価

③アスリハのプログラム作成の実際

●筋力トレーニングの実際

①筋力トレーニングの実施にあたって　②筋力トレーニングの代表エクササイズの実技と指導

●パワー向上トレーニングの実際

①クイックリフト　②ジャンプ系エクササイズ　③プライオメトリクス

④フィットネス分野へのパワー向上トレーニング

●持久向上トレーニングの実際

①持久力向上トレーニングを安全に実施するガイドライン

②持久力を向上させる代表的トレーニング手段

③持久力を向上させる代表的トレーニング方法

④持久力に関連するトレーニング及び環境

●スピード向上トレーニングの実際

①スピードの概念　②スピード向上トレーニングの基本動作

③スピード向上トレーニングのエクササイズ　④ドリル運用とまとめ

●軟性向上トレーニングの及びウォームアップの実際

①スタッティックストレッチ　②パートナーストレッチ　③ダイナミックストレッチ

④器具を使用したストレッチ　⑤ウォームアップ

●トレーニング効果の測定と評価の実際

①トレーニング指導における測定と評価の意義と目的　②測定の一般的留意点

③測定と評価の実際

●測定データの活用とフィードバックの実際

①測定データを活用するための準備　②データの特徴を把握するための記述統計

③ランキングや得点化による評価法　④データ間の関係を把握するための相関分析と回帰分析

スポーツビジネス科

⑤統計的仮説検定の基礎　⑥トレーニング指導における測定データのフィードバック

●トレーニングの運営

①運営と法の知識の必要性　②トレーニング機器　③トレーニング環境　④リスクマネジメント

●運動指導のための情報収集と活用

①情報の収集　②情報の加工　③スポーツと映像　④情報の活用

⑤個人情報の取り扱いについて

テキスト

書籍名　：　トレーニング指導者テキスト（実践編）　　出版社　：　大修館書店

参考書・参考資料等

書籍名　：　ストレングストレーニング＆コンディショニング　出版社　：　ブックハウス・エイチディ

：　パーソナルトレーナーのための基礎知識　　出版社　：　ブックハウス・エイチディ

学生に対する評価

●学習状況の確認：確認問題実施、定期試験の実施、模擬試験の実施において専門知識の理解を点数化により判定し評価する。

●出席率　　：出席率も点数科し評価する。

●科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する

１００点～８０点　優判定　７９点～７０点　良判定　６９点～６０点　可判定　５９点以下　不可

追試験：科目試験において６０点未満の場合は、後日追試験を実施する。

スポーツビジネス科

授業科目名	時間数	学習形態
トレーニング理論	150ｈ	講義・科目試験（筆記）

授業のテーマおよび到達目標

本講座は、トレーニング指導に伴う必要なトレーニング理論全般の習得を目標に置く。

≪到達目標≫

講義：

単元項目終了次、もしくは授業展開次に確認試験を実施し、知識習得の対策を講ずる。

授業の概要

クライアントの健康と体力のニーズに関して、教育、動機付け、評価、トレーニングやコンディショニングの指導を行うための科学的根拠に基づいた知識の習得を目指す。トレーニングの知識に加え、医学的、運動生理学的、運動力学的な科学的根拠に基づいた知識のもと、トレーニング指導者としての指導技術を高める。

実務経験のある教員等

体育大学出身の教員及び学校と提携しているスポーツジム企業講師

授業計画　テキストによる授業

●体力学総論

①体力の概念　②体力要素と体力モデル　③体力の個人特性

④一般的体力と専門的体力　⑤体力トレーニング

●機能解剖

①上肢の骨　②上肢の関節　③上肢の筋肉　④上肢の神経と血管　⑤脊柱の基本構造

⑥脊柱・胸郭の骨　⑦脊柱・胸郭の関節　⑧脊柱・胸郭の筋肉　⑨関節運動を表す用語

⑩下肢の骨　⑪下肢の関節　⑫下肢の筋肉　⑬下肢の神経と動脈

●バイオメカニクス

①運動の記述　②運動の分析　③スポーツ動作　④トレーニング動作

●運動生理学

①呼吸循環器系の基礎的情報　②運動と呼吸循環系　③トレーニングと呼吸循環系

④エネルギー代謝の基礎的情報　⑤運動とエネルギー代謝　⑥トレーニングとエネルギー代謝

⑦骨格筋の形態と機能　⑧筋力発揮メカニズム　⑨筋・神経系に対するトレーニング効果

⑩内分泌器官とホルモン　⑪身体機能へのホルモンの影響　⑫筋肥大におけるホルモンの役割

⑬レジスタンストレーニングとホルモン分泌

●運動と栄養

①五大栄養素の役割　②身体組成とエネルギー代謝　③スポーツ栄養マネジメント

④種目特性の分類と食事　⑤トレーニングスケジュールと食事　⑦水分補給

⑧グリコーゲン補給と回復のための食事　⑨栄養・食事計画の立案　⑩目的別の食事管理

⑪栄養サポートと栄養教育　⑫健康日本21（第二次）における目標　⑬日本人の食事摂取基準

⑭食事バランスガイド　⑮食事バランスガイドを活用した食事指導　⑯食育について

スポーツビジネス科

●運動と心理Ⅰ

①運動・スポーツと心理面　②発育発達に関する心理的側面　③心理面を考慮した指導法
④選手のメンタル面強化　⑤モチベーション　⑥選手のやる気を高める方法
⑦スポーツ技能を向上させるための心理面　⑧チームワークや人間関係に関する心理的側面
⑨スポーツ傷害と心理的側面　⑩メンタルヘルス　⑪指導者の考え方

●運動と心理Ⅱ

①心理的サポートとメンタルトレーニング　②メンタルトレーニングの専門家　③目標設定
④練習前の心理的準備　⑤心理的準備と練習日誌　⑥試合に向けた心理的準備　⑦集中力
⑧イメージトレーニング　⑨プラス思考　⑩セルフトーク　⑪試合中の気持ちの切り替え
⑫選手を取り巻く人に対して

●運動と心理Ⅲ

①各種スポーツとメンタルヘルス　②メンタルヘルスと運動・スポーツ
③メンタルヘルスとスポーツ傷害　④青少年スポーツと女性のダイエット
⑤社会生活とメンタルヘルス　⑥カウンセリング　⑦体育・スポーツ指導者

●運動と医学

①外傷の応急処置　②創傷の応急処置　③緊急時の一次救命処置　④頭頸部外傷時の救急処置
⑤スポーツ傷害とは　⑥足部・足関節の傷害　⑦下腿部の傷害　⑧膝関節の傷害
⑨大腿部の傷害　⑩腰部の傷害　⑪肩関節の傷害　⑫肘関節の傷害　⑬手関節の傷害

●生活習慣病とその予防

①生活習慣病予防と身体活動・運動　②肥満　③糖尿病　④脂質異常症　⑤高血圧

●運動指導の科学

①動作の成り立ち　②神経系の発達　③指導の対象　④動作の習得　⑤練習方法と内容

テキスト

書籍名　：　トレーニング指導者テキスト（理論編）　　出版社　：　大修館書店

参考書・参考資料等

書籍名　：　ストレングストレーニング＆コンディショニング　出版社　：　ブックハウス・エイチディ
　　：　パーソナルトレーナーのための基礎知識　　出版社　：　ブックハウス・エイチディ

学生に対する評価

●学習状況の確認：確認問題実施、定期試験の実施、模擬試験の実施において専門知識の理解を点数化により判定し評価する。
●出席率　　：出席率も点数科し評価する。
●科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する

１００点～８０点　優判定　７９点～７０点　良判定　６９点～６０点　可判定　５９点以下　不可

追試験：科目試験において６０点未満の場合は、後日追試験を実施する。

芸術・デザイン科

授業科目名	時間数	学習形態
ＣＬＩＰ ＳＴＵＤＩＯ実習	180h	講義・演習・科目試験

授業のテーマおよび到達目標

本授業は、ペイントソフトCLIP STUDIOの技能を習得し、それを使用して作品制作を行っていくことを目的とする。

≪到達目標≫

講義：CLIP STUDIOの使い方を理解、習得をする。

演習：CLIP STUDIOを使用し、課題テーマに基づいた作品を、紙枚数換算で４枚以上を制作する。

授業の概要

ソフトの使い方について説明し、説明した機能を使用した上で作品を制作していく。

出来上がった作品は、投稿を行うかもしくはクラス内での発表会を行い、作品に対しての評価を多人数にしてもらう。その評価をフィードバックすることで次の作品へと生かしていく。

実務経験のある教員等

長年デザイン会社のデザーナーとして従事

授業計画　テキストによる授業

○CLIP STUDIOEXの基本

・準備しよう

・インターフェース

・レイヤーの基本

・選択範囲の基本

・画像を変形する

・クラウドで作品を共有する

○原稿用紙とページの管理

・原稿用紙の作成

・単位を設定する

・紙に描いた線画を読み込む

・ルーラー・ガイド・グリッドの表示

○カラー原稿を描く

・カラー原稿の準備と下塗り

・はみ出さないで塗る

・塗った色を変える

・合成モードで色を合成する

・色調補正で色味を調整する

・印刷用データにカラープロファイルを設定する

・テクスチャで質感を出す

○覚えておきたいテクニック

・３D素材を活用する

・アニメーションを作成する。

テキスト

ＣＬＩＰ ＳＴＵＤＩＯ　ＰＡＩＮＴ　ＥＸ公式ガイドブック（MDN）

参考書・参考資料等

ＣＬＩＰ ＳＴＵＤＩＯ　ＰＡＩＮＴ　時短テクニック（ソーテック社）

学生に対する評価

学習状況の確認：作品制作、定期試験（課題提出）の実施において漫画・イラスト・アニメ制作ソフト技術の習得を点数化により判定し評価する。

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する

１００点～８０点　優判定　79点～70点　良判定　６９点～６０点　可判定　５９点以下　不可

追試験：科目試験において６０点未満の場合は、後日追試験を実施する。

文芸創作科

授業科目名	時間数	学習形態
脚本シナリオ基礎	120h	講義・演習・科目試験

授業のテーマおよび到達目標

本授業は、脚本・シナリオの基本構成、書き方を習得し10分（2000文字）程度のシナリオを書く事を目標とする。

≪到達目標≫

講義：完成作品、設計図との比較研究、書き方など今の時代にあった講義を実施

演習：講義時間に演習問題を実施し理解度を６０％以上になる。

科目試験：前期、後期試験において合格点６０％以上になる。

授業の概要

授業テーマに沿って概要を説明し、演習問題の実施を繰り返し知識の定着を図る。

実務経験のある教員等

監督業や映画、ドラマ、企業VTRなどのシナリオ作成、構成経験を豊富に持つ。

授業計画

１.小説とシナリオの違い

・映画、演劇、ゲームシナリオなどの違いの講義

・実際のシナリオを使用し違いを理解する

２.シナリオの書き方

・柱（場所）、ト書き（人物の動き）、セリフの使い方を学ぶ。

・実例を使い講義

３．シナリオと映像とを比較研究する

・映像、漫画など（完成作品）とシナリオ（設計図）の違いを研究する

４．シナリオ執筆

・４００字程度のシナリオから始め、10分（2000文字）程度のシナリオ執筆を完成させる。

・JFNラジオCMコンテストなど、短いシナリオを完成させ応募する。

・ラジオドラマ、テレビドラマなどシナリオコンテストへの応募作品を完成させる事を目標とする。

文芸創作科

テキスト 教員によるオリジナルテキストを使用。
参考書・参考資料等
学生に対する評価 学習状況の確認：演習問題実施、定期試験（課題提出）の実施において操作技術習得の理解を点数化により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する １００点～８０点　優判定　７９点～７０点　良判定　６９点～６０点　可判定　５９点以下　不可 追試験：科目試験において６０点未満の場合は、後日追試験を実施する。

文芸創作科

授業科目名	時間数	学習形態
文学集作品制作	60h	講義・演習・科目試験

授業のテーマおよび到達目標
テーマをもとに小説の制作、講評を行う。小説を制作するための基礎技術や表現手法の習得と向上を目標とする。

≪到達目標≫
自分の作風に合ったストーリーを発見し、表現力を向上させ、作品を完成させることができる。

授業の概要
通年で10ページ以上の小説作品を、前期に１本・後期に２本、計３本制作する。小説の基本を実際の制作を通じて習得する。

実務経験のある教員等
　大学院文化科学研究科修了（修士）後、多くの文学の出筆活動の実績や翻訳活動を実施。

授業計画　テキストによる授業
１．校正記号の使い方
　①　誤字を直す
　②　文字の挿入／削除／入れ替え
　③　句読点中黒の挿入／削除
　④　小書きの挿入／削除
　⑤　書体の変更
　⑥　ルビの挿入／削除
　⑦　直し間違えたとき
　⑧　改行する／行を続ける
　⑨　字間を空ける／詰める
　⑩　リーダ・ダージの挿入／削除
　⑪　総合問題

2.物語の設定を決める
　①　書く小説の文字数を決める
　②　物語のテーマを決める
　③　物語の世界観を決める
　④　主要人物の設定を決める

3.プロット作成の準備
　①　物語の結末を決める
　②　アイデアを集める

4プロットを引く
　①　大雑把なプロットを作成する
　②　詳細なプロットを作成する
　③　プロットから不要なシーンを削る
　④　プロットのシーンの順番を変える

5実際に小説を書く
　①　必要な伏線を付け加える

文芸創作科

6.修正をする

① 日本語としておかしい文章を修正する
② より適切な言葉使いに修正する
③ より短い言葉で表せられないか修正する
④ 誤字脱字は無いか？

7.作品完成／講評

テキスト

「校正記号練習帳」　日本エディタースクール編

参考書・参考資料等

「編集必携」　日本エディタースクール編

学生に対する評価

学習状況の確認：文学集制作、定期試験（課題提出）の実施において専門知識の理解を点数化により判定し評価する。
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する

１００点～８０点　優判定　７９点～７０点　良判定　６９点～６０点　可判定　５９点以下　不可

追試験：科目試験において６０点未満の場合は、後日追試験を実施する。

ファッションビジネス科

授業科目名	時間数	学習形態
ファッションビジネス概論	120h	講義・演習・科目試験

授業のテーマおよび到達目標
本授業は、ファッションビジネスの世界に就職し、自らが希望する職種で活躍するときに必要とする高度で専門的な知識・技術を学び、現場で必要となるデザイン・マーケティング情報を駆使して、商品企画から商品生産、流通、販売促進などに至るまでのノウハウを養う。更に、企画・創造力、洞察力等も身に着ける。
また、「ファッションビジネス能力検定試験」の資格取得も目的とし、現場で即戦力として活躍できる知識・技術を養う。

≪到達目標≫
講義：ファッションビジネスの概要、産業分類、ファッションマーケティング、業界基礎用語や各アイテムの名称を理解し、ファッションビジネスの流れや各職種に必要な知識・技術を養う。
演習：講義時間における演習問題や模擬試験の実施を受け、理解度60%以上になる。
科目試験：前期・後期において合格点の60%以上になる。

授業の概要
授業テーマに沿って概要を説明し、演習問題の実施を繰り返し知識の定着を図る。さらに試験直前１ヶ月前から対策授業を実施し答錬を繰り返していく。

実務経験のある教員等
長年ファッション会社のデザイナーとして従事

授業計画　テキストによる授業

1.ファッションビジネスの概要
・ファッションビジネスの定義と特性
・繊維ファッション産業の流れ
2.ファッション消費と消費者行動
・消費者行動とファッション表現
・ライフスタイルとファッション
・消費者購買行動
3.アパレル産業と小売産業
・アパレル産業の概要
・ファッション小売り産業の概要
4.ファッションマーケティング
・マーケティングの基礎知識
・マーケティング上の分類方法
・市場調査の基礎知識
5.ファッションマーチャンダイジング
・マーチャンダイジングの基礎知識
・商品企画、生産、販売の流れ
・売場商品構成
6.ファッション流通

・流通

・ファッション小売業の仕組みと業務

7.ビジネス基礎知識

・会社に関する基礎知識

・企業の組織

・企業会計

・計数知識

8.デザインの定義と特性

・衣服の流れ

・デザインとは

9.ファッションコーディネーション

・コーディネーションの基礎知識

・ファッションスタイリング

・ファッション企業のスタイリング

10.ファッション商品知識

・アパレル商品知識

・シルエットの知識

・ディテールの知識

・サイズの知識

・繊維の知識

テキスト

「ファッションビジネスⅠ」、「ファッションビジネスⅡ」(一般財団法人ファッション教育振興協会出版)

参考書・参考資料等

「売れるファッションの見つけ方・つくり方」

「服飾図鑑」

「ドメスティックブランドを立ち上げる」

「スタイリスト＆コーディネーターの条件」

「ユニバーサルファッション概論」

学生に対する評価

学習状況の確認：演習問題実施、定期試験の実施、模擬試験の実施において専門知識の理解を点数化により判定し評価する。

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する

１００点～８０点　優判定　７９点～７０点　良判定　６９点～６０点　可判定　５９点以下　不可

追試験：科目試験において６０点未満の場合は、後日追試験を実施する。

ファッションビジネス科

授業科目名	時間数	学習形態
服飾概論	120h	講義・演習・科目試験

授業のテーマおよび到達目標
本授業は、ファッション業界のプロの販売員として必要な販売の基礎知識、ディスプレイ・レイアウト、スタイリング、収益に関する計数管理、マーケティング等の分野理解を目的とする。
また、「ファッション販売能力検定試験」の資格取得も目的とし、現場で即戦力として活躍できる知識・技術を養う。

≪到達目標≫
講義：業界基礎用語や各アイテムの名称を理解し、ファッションビジネスの流れや販売員として必要な知識・技術を養う。
演習：講義時間における演習問題や模擬試験の実施を受け、理解度60%以上になる。
科目試験：前期・後期において合格点の60%以上になる。

授業の概要
授業テーマに沿って概要を説明し、演習問題の実施を繰り返し知識の定着を図る。さらに試験直前１ヶ月前から対策授業を実施し答錬を繰り返していく。

実務経験のある教員等
　長年ファッション会社のデザイナーとして従事

授業計画　テキストによる授業

1.ファッション販売知識
・流行とファッション
・ファッション販売スタッフに求められる知識と技術
・ファッション小売業の業態・業種（有店舗小売業、無店舗小売業、オムニチャネル）
・CS活動について（顧客満足を提供する理由）
・一見客から顧客になるプロセス（CRMの活用例）
・ライフスタイルショップの販売知識

2.ファッション販売技術
・販売スタッフの基本マナー（挨拶、お辞儀、身だしなみ、立ち居振る舞い、電話対応、接客の言葉遣い、Eメールマナー、SNS活用ルール）
・購買心理の理解・AIDMAの法則の理解
・接客の基本とコンサルティングセールス
・包装/ラッピングの知識と技術習得
・贈答品のマナー（掛紙・熨斗・水引）
・お客様に関する知識（客タイプ別対応のポイント、客層別対応例、体型別着こなし提案）
・コーディネート提案（ワードローブの活用例、カラーアドバイス）
・クレームの対応
・衣類のお手入れ
・お直しの基礎
・外国人客への接客

3.商品知識

・アイテムの知識（婦人服、紳士服、ニットウェア、ベビー・子供服）
・インナーウェアの知識（インナーウェアの分類、アイテムの種類と役割、取り扱い方法）
・服飾雑貨（スカーフ・マフラー類、ネクタイ類、アクセサリー、靴・鞄、帽子）
・素材の種類と加工（糸、織物、編物、生地加工）
・シルエットの知識（シルエットの変遷、ディテールの知識）
・柄の種類と特徴（柄の分類、柄の種類）
・色彩と配色の知識（色の三属性、色調、色彩の感情効果、配色の基本）
・サイズの知識（国際基準、国内基準）
・商品の品質管理（繊維製品の品質管理、家庭用品品質表示法による表示種類）
・副資材の種類（裏地、芯地、留め具）

4.売り場づくり
・店舗の環境づくり（ビジュアルマーチャンダイジングと店舗機能、SIとファサードの演出、購買心理の動きとVMDの役割、魅力的な店舗の特徴、照明と配色）
・マーチャンダイズプレゼンテーション（VP・PPの演出の為のMP技法、IPで展開するMP技法、VP・PPに適した器具、IPに適した什器と補助器具）

5.マーケティング
・マーケティングの基礎知識（マーケティングの概念と変遷、マーケティングの役割）
・ファッション店舗のマーケティング（リテールマーケティングの重要性、外的環境とマーケティング、ファッション小売業の業種。業態、ストアロケーションとマーケティング、SWOT分析、ターゲットマーケティング・ターゲットプロファイリング・ペルソナ分析）
・マーチャンダイジングの知識と実践
・リテールマーチャンダイジング
・デジタルマーケティング（オムニチャネルへの対応）

6.販売スタッフの業務
・販売業務と付帯業務（開店前業務、営業時間中業務、清算業務）
・備品管理
・商品管理（店頭・ストック商品管理、取り置きと客注対応）
・店舗計数管理（計数管理、予算管理の方法、販売に関わる計数管理）
・キャリアプラン（ファッションビジネスの職種と職務、自己啓発、キャリアプラン）

7.店舗運営管理
・店舗運営管理の基本（仕入計画、商品の仕入方法、売れ筋商品の分析、QRシステムの理解）
・計数コントロール（店予算と個人予算、在庫回転率と在庫回転日数、損益分岐点売上高）
・店舗の人事管理（スケジュール管理、人事管理の運営法規、人材育成）
・CSR・サスティナビリティへの関心

テキスト
「ファッション販売3」、「ファッション販売2」　（一般財団法人 日本ファッション教育振興協会 出版）

参考書・参考資料等
「売れるファッションの見つけ方・つくり方」

ファッションビジネス科

「服飾図鑑 改訂版」 「服地の基本がわかるテキスタイル辞典」
学生に対する評価 学習状況の確認：演習問題実施、定期試験の実施、模擬試験の実施において専門知識の理解を点数化により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する １００点～８０点　優判定　７９点～７０点　良判定　６９点～６０点　可判定　５９点以下　不可 追試験：科目試験において６０点未満の場合は、後日追試験を実施する。

情報ビジネス科

授業科目名	時間数	学習形態
自己分析と自己啓発	120ｈ	講義・演習・科目試験

授業のテーマおよび到達目標
本授業は、自己を知り人としての教養を深めるとともに社会人としてのルールやマナーを実践できる人物を育む。また、他人との関わりの中での自分の役割を見出したり、他人の存在価値を見出したりして人としての成長を促す。
≪到達目標≫
・　社会の中で生きていくための自己をみつめる
・　社会人としてのマナーを身につける
一般教養を身につける

授業の概要
社会人としての冠婚葬祭マナーや名刺交換、接客応対、電話応対などビジネスマナーを体得する。さらに、アクティブラーニング等の授業展開を駆使して、他人の中での自分を見つめる。また、人前でのプレゼンテーション技術も磨くために３分間スピーチなどを取り入れて自己啓発を助長する。

実務経験のある教員等
　長年の企業勤務スキルをもとに新入社員教育研修などＯＪＴを活用した経験

授業計画　テキストによる授業やアクティブラーニング授業
＜テキスト授業＞
１．社会人としてのビジネスマナーの基本
２．報告・連絡・相談の重要性
３．来客応対と訪問マナー
４．電話応対の基本
５．ビジネス文書の書き方
６．会社関係でのつきあい
７．統計データの読み方・まとめ方
８．情報収集とメディアの活用
＜アクティブラーニング授業＞
・課題提示による能動的授業の実施。
　　（一つの課題に対して約４週間使って、討論・発表にいたる）

テキスト
ビジネス能力検定ジョブパス（日本能率協会マネジメントセンター出版）

参考書・参考資料等
・アクティブラーニング入門書（小林昭文諸）

学生に対する評価
学習状況の確認：演習問題実施、グループディスカッションへの参加意欲、プレゼンの実施においてビジネス知識の理解を点数化により判定し評価する。
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
　１００点～８０点　優判定　７９点～７０点　良判定　６９点～６０点　可判定　５９点以下　不可
追試験：科目試験において６０点未満の場合は、後日追試験を実施する。

情報ビジネス科

授業科目名	時間数	学習形態
就職ガイダンス	40ｈ	講義・演習

授業のテーマおよび到達目標
本授業は、就職活動開始前に、就職指導部が中心になり本校の就職活動実施規定に基づき、第一希望の企業、または正社員としての内定を得ることを目的で実施する。
≪到達目標≫
・在学中に正社員としての内定を勝ち取る

授業の概要
本授業は、就職活動開始前に、就職指導部が中心になり本校の就職活動実施規定に基づき、企業訪問の仕方、履歴書の書き方、礼状や報告書の書き方、面接指導など行い、学生が自信を持って就職活動に取組めるように導く。

実務経験のある教員等
　長年の企業勤務スキルをもとに人事考課、人事採用を経験

授業計画　テキストによる授業や実技授業
＜テキスト授業＞
１．職業理解（業種・職種など）
２．企業訪問のマナー（アポイントのとり方と訪問マナー）
３．礼状の書き方
４．履歴書の書き方
５．筆記試験対応
６．好印象を残す面接試験の受け方
７．報告書の書き方と提出の仕方
８．企業研究

＜実技授業＞
・　履歴書を書き就職指導部に提出
・　名刺のもらい方実践
・　面接試験模擬授業　など

テキスト
・　就職情報誌（本学独自作成）
・　就職の手引き（本学独自作成）

参考書・参考資料等

学生に対する評価
学習状況の確認：履歴書書き実施、面接模擬授業の実施において取組み姿勢や理解を点数化により判定し評価する。
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
　１００点～８０点　優判定　７９点～７０点　良判定　６９点～６０点　可判定　５９点以下　不可
追試験：科目試験において６０点未満の場合は、後日追試験を実施する。

情報ビジネス科

授業科目名	時間数	学習形態
新社会人教育	40ｈ	講義・演習

授業のテーマおよび到達目標
本授業は、卒業年次の学生を対象に実施し、社会人としてのビジネスマナーを実践できることを目標にする。
≪到達目標≫
・できる社員と評価されるようにビジネスマナーを体得する。

授業の概要
本授業は、社会人としての基本である名刺交換のマナーや来客応対、電話応対のマナーを実践形式で行う授業である。

実務経験のある教員等
　長年の企業勤務スキルをもとに新入社員教育研修などＯＪＴを活用した経験

授業計画　実技授業

１．会社でよく使う挨拶の実践
２．報告・連絡・相談の仕方と実践
３．名刺の受け渡しの実践
４．来客応対の仕方（名刺預かり・応接室案内対応など）
５．ビジネス電話の掛け方・受け方実践上記の

教室のレイアウトを項目ごとに事務室、受付、応接室などに変更して、一人ひとり実践させてアドバイスを行う。

テキスト
・就職情報誌

参考書・参考資料等
・学校独自の資料（就職指導部作成）

学生に対する評価
学習状況の確認：一人ひとり、上記授業計画内容で実践させて担当教員が評価する。
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
　１００点～８０点　優判定　７９点～７０点　良判定　６９点～６０点　可判定　５９点以下　不可
追試験：科目試験において６０点未満の場合は、後日追試験（レポート）を実施する。

情報ビジネス専修科

授業科目名	時間数	学習形態
自己分析と自己啓発	120ｈ	講義・演習・科目試験

授業のテーマおよび到達目標
本授業は、自己を知り人としての教養を深めるとともに社会人としてのルールやマナーを実践できる人物を育む。また、他人との関わりの中での自分の役割を見出したり、他人の存在価値を見出したりして人としての成長を促す。
≪到達目標≫
・　社会の中で生きていくための自己をみつめる
・　社会人としてのマナーを身につける
一般教養を身につける

授業の概要
社会人としての冠婚葬祭マナーや名刺交換、接客応対、電話応対などビジネスマナーを体得する。さらに、アクティブラーニング等の授業展開を駆使して、他人の中での自分を見つめる。また、人前でのプレゼンテーション技術も磨くために３分間スピーチなどを取り入れて自己啓発を助長する。

実務経験のある教員等
　長年の企業勤務スキルをもとに新入社員教育研修などＯＪＴを活用した経験

授業計画　テキストによる授業やアクティブラーニング授業
＜テキスト授業＞
１．社会人としてのビジネスマナーの基本
２．報告・連絡・相談の重要性
３．来客応対と訪問マナー
４．電話応対の基本
５．ビジネス文書の書き方
６．会社関係でのつきあい
７．統計データの読み方・まとめ方
８．情報収集とメディアの活用
＜アクティブラーニング授業＞
・課題提示による能動的授業の実施。
　　（一つの課題に対して約４週間使って、討論・発表にいたる）

テキスト
ビジネス能力検定ジョブパス（日本能率協会マネジメントセンター出版）

参考書・参考資料等
・アクティブラーニング入門書（小林昭文諸）

学生に対する評価
学習状況の確認：演習問題実施、グループディスカッションへの参加意欲、プレゼンの実施においてビジネス知識の理解を点数化により判定し評価する。
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
　１００点～８０点　優判定　７９点～７０点　良判定　６９点～６０点　可判定　５９点以下　不可
追試験：科目試験において６０点未満の場合は、後日追試験を実施する。

情報ビジネス専修科

授業科目名	時間数	学習形態
就職ガイダンス	40ｈ	講義・演習

授業のテーマおよび到達目標
本授業は、就職活動開始前に、就職指導部が中心になり本校の就職活動実施規定に基づき、第一希望の企業、または正社員としての内定を得ることを目的で実施する。
≪到達目標≫
・在学中に正社員としての内定を勝ち取る

授業の概要
本授業は、就職活動開始前に、就職指導部が中心になり本校の就職活動実施規定に基づき、企業訪問の仕方、履歴書の書き方、礼状や報告書の書き方、面接指導など行い、学生が自信を持って就職活動に取組めるように導く。

実務経験のある教員等
　長年の企業勤務スキルをもとに人事考課、人事採用を経験

授業計画　テキストによる授業や実技授業
＜テキスト授業＞
１．職業理解（業種・職種など）
２．企業訪問のマナー（アポイントのとり方と訪問マナー）
３．礼状の書き方
４．履歴書の書き方
５．筆記試験対応
６．好印象を残す面接試験の受け方
７．報告書の書き方と提出の仕方
８．企業研究

＜実技授業＞
・　履歴書を書き就職指導部に提出
・　名刺のもらい方実践
・　面接試験模擬授業　など

テキスト
・　就職情報誌（本学独自作成）
・　就職の手引き（本学独自作成）

参考書・参考資料等

学生に対する評価
学習状況の確認：履歴書書き実施、面接模擬授業の実施において取組み姿勢や理解を点数化により判定し評価する。
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
　１００点～８０点　優判定　７９点～７０点　良判定　６９点～６０点　可判定　５９点以下　不可
追試験：科目試験において６０点未満の場合は、後日追試験を実施する。